



Contents

○自民党総裁選挙2020
「分断から協調へ」

○安倍総理辞任表明から
投開票まで18日間



自民党総裁選挙2020

安倍総理辞任表明から投開票まで18日間

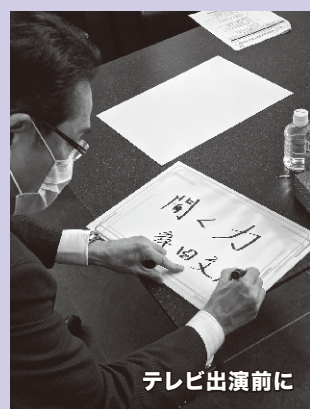


新橋で街頭演説

令和2年8月28日、安倍総理が辞任を表明しました。平成24年に第二次安倍内閣が発足し、連続して7年8ヶ月続いた長期政権に幕が下ろされることとなり、同時に、自民党の総裁選挙が行われることが決定しました。

岸田文雄はこの自民党総裁選に立候補することを表明。自民党総裁の座を目指し戦いに臨みました。

この度の総裁選は新型コロナウイルス対策のため公式行事としての全国遊説などは行われず、リモートの討論会やテレビ出演が中心となり、短い期間の中の開催となりました。その間、岸田文雄は「岸田ビジョン」として「分断から協調へのスローガンのもと政策を発表し、福島県や宮城県を訪問、また台風対策を政調会長として行いつつ、リモート会議



テレビ出演前に



日本記者クラブで討論会

を行うなど、「聞く力」や「正姿勢」など自らの政治姿勢を全国の国民の皆様に見せたいと訴えました。

安倍総理辞任表明から合計18日間、岸田文雄は全力で戦い抜きました。その結果、第二位という残念な結果に終わりましたが、次に繋がる結果だったとも言えます。岸田文雄の戦いはこれからも続いています。



候補者3人でグータッチ



総裁選投票



両院議員総会で壇上へ

岸田文雄後援会事務所

●国会事務所
〒100-8982 東京都千代田区永田町2-2-1
衆議院第一議員会館1222号室
TEL (03) 3508-7279 (直通) FAX (03) 3591-3118

●広島事務所
〒730-0013 広島市中区八丁堀6-3
和光八丁堀ビル9階
TEL (082) 228-2411 (代表) FAX (082) 223-7161

●岸田文雄ホームページ
<https://www.kishida.gr.jp/>



岸田文雄プロフィール

昭和32年生まれ。早稲田大学法学部卒業後、株式会社日本長期信用銀行等を経て、平成5年の衆議院議員総選挙において初当選。以後9期連続当選中。

自民党青年局長・商工部会長・経理局長、建設政務次官・文部科学副大臣、衆議院厚生労働委員長などを歴任後、平成19年の第一次安倍改造内閣において内閣府特命担当大臣（沖縄担当など）で初入閣。初代消費者行政推進担当大臣として消費者庁新設の土台を作る。

平成23～24年にかけて党国会対策委員長として国会最前線で指揮をとり、与党に対して厳しい国会追及を行い、解散に追い込む。

平成24年には保守本流の政策集団である「宏池会」の会長に就任する。

平成24年発足の第二次安倍内閣において外務大臣として入閣。以降4年8ヶ月の長期間外務大臣を務め、その間オバマ米大統領広島訪問などを実現させ、連続期間・専任期間としては戦後最長の記録を立てる。また憲政史上初の外務大臣と防衛大臣を兼務。

平成29年自民党政務調査会長に就任。党の政策責任者として大きな期待と責任を担う。

岸田文雄公式Twitter

@kishida230

岸田文雄の日々の活動や政策、日常の一言など、様々なつぶやきをしています。ぜひフォローをお願い致します。



自民党総裁選挙2020

「分断から協調へ」 岸田文雄

8月28日、安倍晋三総理が突然の辞意表明をされ、そして自民党総裁選挙が行われました。

安倍総理の7年8か月にわたる長期政権の成果に心から敬意を表すとともに、次の時代を考えないといけないということ、私も「分断から協調へ」という言葉をテーマに、初めて総裁選に挑戦いたしました。

総裁選に初めて挑戦したことは大変貴重な経験でしたし、何よりも大勢の皆様方に力強いお力添え頂いたことは、本当にありがたいことでした。

それにも関わらず、総裁選挙に勝利できなかったことについては、ひとえに私の力不足であ

り、努力不足であったと、心からお詫びを申し上げる次第でございます。

自民党総裁選に挑戦して初めて見た政治の景色もありました。

挑戦して初めて感じられる政治の雰囲気もありました。

他方で3人の候補者が多角的で深みのある論戦を展開することができ、そのことによって自民党の幅の広さ、奥の深さを国民に示すことができたとも思っております。

その論戦に私も貢献することができたことは、誠に光栄なことだったと思っております。

ただし、次の機会では貢献するだけでなくして、ぜひ勝利することができるよう、私自身これからも政策を磨き力を蓄え、精進していきたいと存じます。

自民党総裁選挙を経て、菅政権が誕生し、9月16日に新しい船出行われました。

菅政権においては顔ぶれを見ても、安定した堅実な内閣だとも誰もが感じるところです。

早速、携帯料金の引き下げや、デジタル化の推進、規制改革の推進など、矢継ぎ早に政策を打ち出しており、世論調査の結果も好調です。

これは、新型コロナウイルスとの戦いの中で露呈した我が国経済社会の脆弱性を克服する意欲的な試みであり、私としても宏池会としても、これをしっかりと支えていきたいと思っております。

同時に、こうした取り組みによって、どんな経済社会を目指すのかを考えなければなりません。私は総裁選において、「国民の

ための資本主義」を目指していくべきだと考えております。

今や世界においては、中国をはじめ国家が情報や資本を一手に握り国の権威を高めるという「国家のための資本主義」が勢いを増しています。

利益や効率を重視し、結果として一部の大企業が利益を独占するような資本主義だけでは国民は幸せになれないことを私たちは経験してきました。

いま日本に求められているのは、新しい資本主義、言うなれば「国民のための資本主義」です。資本主義の基本的構成要素は「資本」と「労働」、すなわち「カネ」と「ヒト」ですが、その中でも「ヒト」を大切にした人間中心の資本主義を今一度考えるべきではないかと思っております。

イノベーションを通じて価値の高付加価値化を図り、国民全体の利益の最大化を図る中で、成長の果実利益を適切に分配することで国民の一体感や持続可能性を確保する。利益だけではなく、環境など社会への貢献なども、企業の評価のものさしにしていかなければならない……。

そのために、教育・子育てや住宅中

心に中間層への支援を展開するとともに、デジタル田園都市構想を通じて分散化された持続可能な国土形成を進め、絶えず新たな成長のエンジンを追求するためにも10兆円の研究開発基金の創設など、これからも絶え間なく積極的に政策提言をして参る所存です。

また個性や多様性を認めるからこそ、国民の一体感を感じることができ、私はそんな社会を目指していきたいと思っております。

我々は激動の時代を生きています。歴史や伝統を大切にし教訓にしながら、変えるべきものは大胆に勇氣をもつて変えていくことが求められています。

私たちは宏池会63年の歴史に思い巡らしながらも、令和の時代の新たな政策集団を目指して、風通しが良くしっかりとした団結力を持つ、そして政局にあたりてはしっかりとした戦闘能力を持つ集団として進化していかなければいけないと思っております。

これからも絶え間なく努力を続けて参ります。

これが私の目指す「分断から協調へ」です。



政策発表記者会見



新橋で街頭演説



リモートで支援を呼びかける



宮城県視察



福島県視察



岸田文雄 選挙対策本部出陣式